

(報告)18年度ユーザー理解活動

2019年5月31日

公益財団法人自動車リサイクル促進センター

《目次》

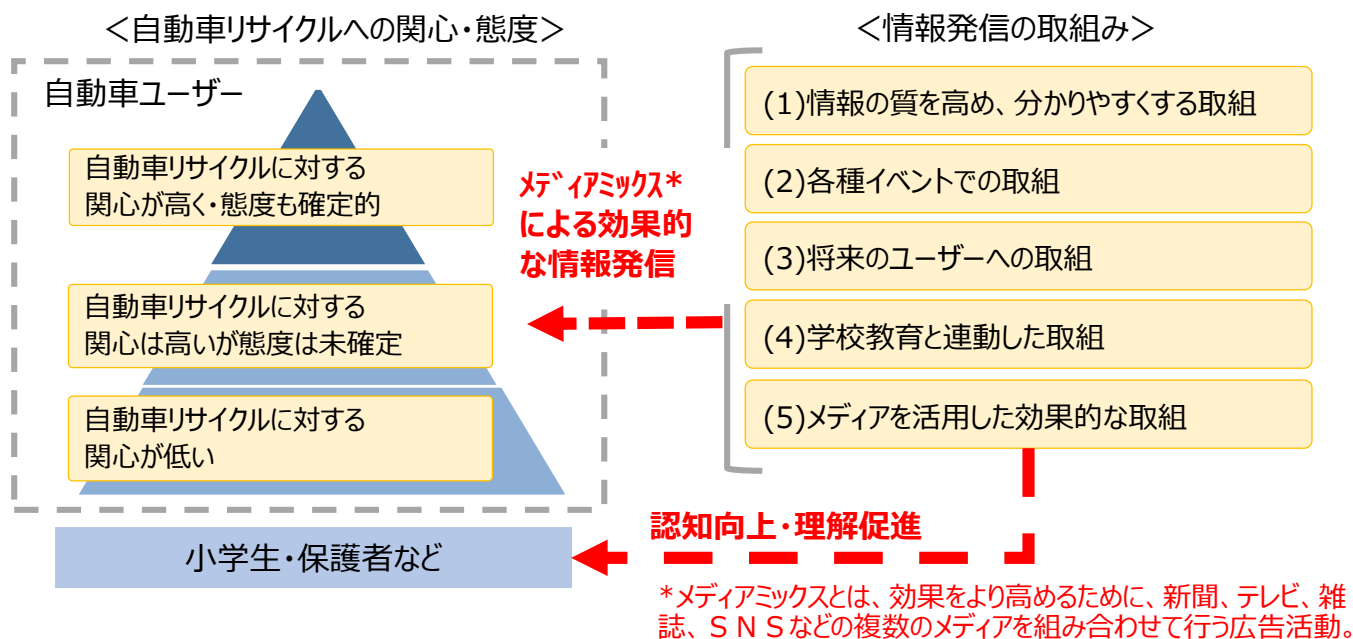
1. 2018年度ユーザー理解活動の計画	・・・ P2
2. 情報の質を高める取組	・・・ P3
3. インターネットメディアでの露出を高める取組	・・・ P5
4. 全国環境イベントでの取組	・・・ P7
5. 小学生とその保護者を対象とした取組	・・・ P11
6. クルマのリサイクル作品コンクールを開催	・・・ P15
7. 大阪市に常設展示ブースを開設	・・・ P16
8. 将来のユーザーへの情報提供の取組	・・・ P17
9. テレビ・ラジオなどのメディアを活用した取組	・・・ P21
10. ユーザー理解活動による取組効果	・・・ P23
11. ユーザー理解活動に要した費用	・・・ P25

1. 2018年度ユーザー理解活動の計画

ユーザーを始めとした自動車リサイクルの関係者のニーズを把握しながら、新たな切り口により情報発信・共有の高度化を図る取組を行った。

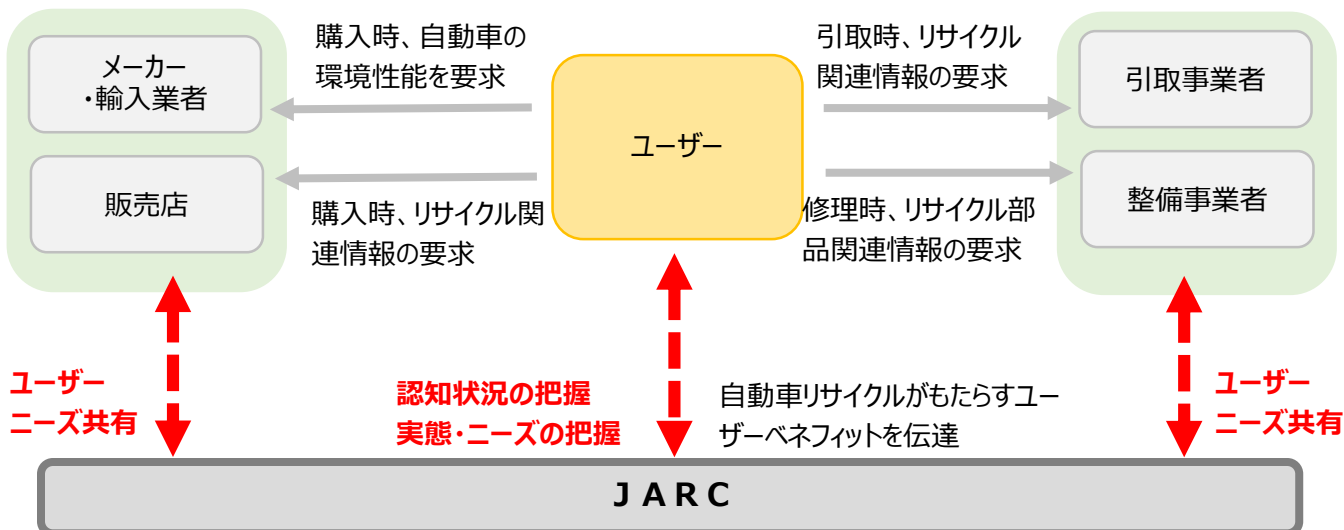
(1) 情報発信の取組

ユーザーにとって利便性が高く、コスト効率が良い手法を用いて、ユーザーに質の高い情報を提供する。そして、ユーザーとのコミュニケーション回数を増やし、効果的にメディアを活用しながら、“点”での取組を“面”への取組へと活動の幅を広げていく。



(2) 情報収集の取組

分かりやすい情報へと広報コンテンツの質を高め、ユーザーに対して効果的に情報を届けられるように、ユーザーの自動車リサイクルについての認知状況や自動車リサイクルの関係者のニーズを把握する。



2. 情報の質を高める取組

広報映像やリサイクル博士のキャラクターなど活用し、タイムリーな情報を発信した。また、ユーザー向け広報ツールをダウンロードできるように改善を行った。

<災害対応のまとめページ>

平成30年7月豪雨に関して必要とされる情報を取りまとめた掲示

- ・被災車両に関するよくある質問
- ・被災車両を扱う事業者の皆さま
- ・各省庁等からの連絡事項

<広報ツールを掲示したウェブページ>



新たに製作した広報ツール等を掲示



自動車リサイクルデータBook2007を公表。過去10年間にリサイクルシステムに蓄積されたデータ及び関係団体等有するデータを基に、自動車リサイクルを取り巻く状況をまとめた。



新たに製作したチラシ



全国運輸支局等窓口でのチラシ備付やポスターを掲示

JARCウェブページにて、質を高めた情報をタイムリーに発信した。
また、ユーザー向け広報ツールの英訳版を作成し、ウェブページに掲示した。

公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC

自動車リサイクルの紹介 二輪車リサイクルの紹介 データ・会議資料 本財団について お問い合わせ

第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール
標語・ポスター大募集!

2018.11.01 ニュースリリース
全国の小学生を対象とした第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール開催

2018.10.31 ニュースリリース
「2018松江環境フェスティバル」に出展

2018.10.22 更新情報
自動車リサイクルに関する広報ツールを更新

2018.10.19 ニュースリリース
東京都発行の「東京グリーンボンド」に投資

2018.10.16 更新情報
自動車リサイクル法に基づく運用状況等の実績情報を更新(9月度)

動画で知る自動車リサイクル
自動車リサイクルシステムホームページ
自動車リサイクルデータ
「クルマのリサイクル」

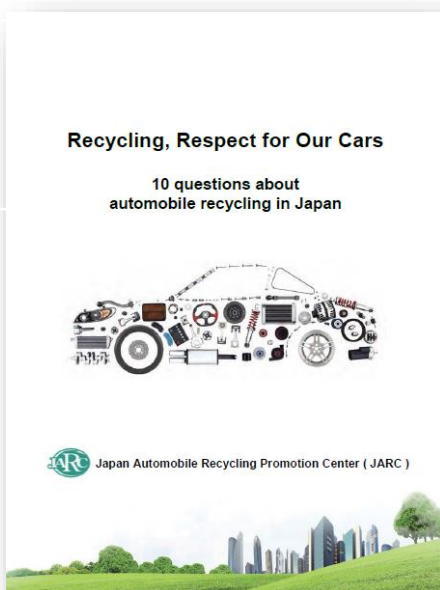
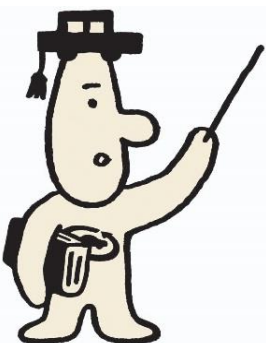
取組例

“クルマのリサイクル作品コンクール”にあたり、作品募集を案内



11月28日、北九州市にて第4回目（全4回）の自治体向け自動車リサイクル関連ステップアップ現場研修を、経済産業省、環境省、（一社）自動車再資源化協力機構とともに行いました。研修には、20名の自治体担当者が出席されました。

自動車リサイクルの概要をまとめた広報ツールの英訳版を作成掲示



11月22日、名古屋市にて第3回目（全4回）の自治体向け自動車リサイクル関連ステップアップ現場研修を、経済産業省、環境省、（一社）自動車再資源化協力機構とともに行いました。研修には、37名の自治体担当者が出席されました。

3. インターネットメディアでの露出を高める取組

2018年度では、ニュースリリース配信を24件行い、インターネットメディアでの自動車リサイクルに関する情報の露出を高める取組を行った。結果、インターネットメディアに1,370件の記事が掲載された(広告換算:約3億5千万円)。

(1) リリース情報と広告換算(参考値)

	配信日	リリース情報	掲載数 (件)	広告換算* (万円)
1	4/3	第1回「クルマのリサイクル作品コンクール」の表彰式を開催	55	1,481
2	4/16	平成30 年度事業計画を策定	67	1,753
3	5/15	自治体向け「自動車リサイクル関連基礎知識研修」5月11日から全国9ヶ所で開催	55	1,506
(略)				
14	10/1	JARC 2018年10月からESG投資を開始	57	1,431
15	10/3	「県民環境フェア2018inなは」に初出展	55	1,425
16	10/19	JARC 東京都発行の「東京グリーンボンド」に投資	56	1,428
17	10/31	「2018松江市環境フェスティバル」に出展	54	1,215
18	11/1	第2回「クルマのリサイクル」作品コンクール開催	56	1,221
19	11/30	「エコプロ2018」に出展	56	1,426
20	12/5	「京都環境フェスティバル2018」に出展	56	1,441
21	12/6	「JICA発行のソーシャルボンド」に投資	56	1,428
22	12/20	平成30年度大規模自然災害等の被災地域支援活動に対する災害対応支援環境大臣表彰を受けました	52	1,406
23	1/22	大阪市に自動車リサイクルの常設展示ブースを開設	57	1,433
24	2/14	PR動画を本日より全国公開	54	1,401
合 計			1,370	35,190

*メディアに記事掲載された際の露出効果を、同じ枠を広告として購入した場合の広告費に換算したもの

(2) 掲載メディア例

毎日新聞、朝日新聞、四国新聞、京都新聞、奈良新聞、山形新聞、福井新聞、沖縄タイムスプラス、紀伊民報、千葉日報、宮崎日日新聞、新潟日報、茨城新聞、徳島新聞、福島民友、紀伊民報、山梨日日新聞、河北新報、上毛新聞、秋田魁新報、下野新聞、週刊女性PRIME、AFP BBNews、楽天NEWS、Google ニュース、Impress Watch Headline、excite ニュース、J-CAST ニュース、CNET Japan、

ニュースリリース（一例）



コンクール表彰式を行いました



作品コンクール表彰式の状況



環境大臣表彰を受けました



災害対策支援環境大臣表彰の状況

2018年8月から11月にかけて、“自動車リサイクル博士”の“ゆるキャラグランプリ2018”への出場を通じ、自動車リサイクルの認知を高める取組を行った。

8/1、公式キャラクターである“自動車リサイクル博士”が、ゆるキャラグランプリ2018に初出場した。

11/9のグランプリ終了の結果、自動車リサイクルの関係者の
応援を受け、“企業・その他”の部門で出場のキャラクター
403件中、**156位（2,383票**を獲得）であった。

*主催：ゆるキャラ®グランプリ実行委員会



4. 全国の環境イベントでの取組

2018年度は、昨年度の8ヶ所から13ヶ所へと各地域の環境イベントの出展回数を増やし、全国をキャラバンしながら自動車リサイクルの取組についての理解活動を行った。そして、出展に際しては、地域メディアや自治体との情報共有を行いながら地域住民へ情報発信を行った。

(1) 環境イベントへの出展計画

	開催地	名称	予定月	規模	MAP
①	神奈川県	かながわEco10Festa	5月	14万人	
②	北海道	環境広場さっぽろ	6月	3万人	
③	長野県	信州環境フェア	7月	1万人	
④	愛媛県	まつやま環境フェア	8月	0.5万人	
⑤	石川県	いしかわ環境フェア	8月	3万人	
⑥	秋田県	あきたEco&リサイクルフェスティバル	9月	3万人	
⑦	宮城県	EcoFesta仙台	9月	1万人	
⑧	愛知県	環境デーなごや	9月	15万人	
⑨	福岡県	北九州Ecoライズステージ	10月	15万人	
⑩	沖縄県	県民環境フェア	10月	0.5万人	
⑪	島根県	松江環境フェスティバル	11月	1万人	
⑫	京都府	京都環境フェスティバル	12月	3万人	
⑬	東京都	EcoFesta 2018	12月	16万人	

*⑨福岡県、⑩沖縄県の環境イベントは、台風の影響により中止。

(2) 取組状況

- 日程：5月26日～27日
- 場所：神奈川県横浜市
- 来場者：約14万人
- ① ■ アンケート回収数：1,284件
内自動車ユーザー：741件(58%)
- 自動車リサイクル認知状況：71%
- メディアへの掲出
なし



②

- 日程：6月23日、24日
- 場所：北海道札幌市
- 来場者：3万人
- アンケート回収数：**1,003件**
内自動車1-ガー：713件(71%)
- 自動車リサイクル認知状況：**67%**
- メディアへの掲出
なし



③

- 日程：7月28日～29日
- 場所：長野県長野市
- 来場者：約1万人
- アンケート回収数：**967件**
内自動車1-ガー：788件(82%)
- 自動車リサイクル認知状況：**72%**
- メディアへの掲出
SBC信越放送(エコロジー最前線)

体験学習 マラカス作り



④

- 日程：8月25日
- 場所：愛媛県松山市
- 来場者：約0.2万人
- アンケート回収数：**194件**
内自動車1-ガー：137件(71%)
- 自動車リサイクル認知状況：**70%**
- メディアへの掲出状況
日刊工業新聞



⑤

- 日程：8月25日、26日
- 場所：石川県金沢市
- 来場者：約2.7万人
- アンケート回収数：**1,183件**
内自動車1-ガー：1,027件(89%)
- 自動車リサイクル認知状況：**68%**
- メディアへの掲出状況
なし

体験学習 マラカス作り



⑥

- 日程：9月1日、2日
- 場所：秋田県秋田市
- 来場者：約2.2万人
- アンケート回収数：**1,149件**
内自動車1-ガー：807件(70%)
- 自動車リサイクル認知状況：**70%**
- メディアへの掲出状況
日刊産業新聞



⑦

- 日程：9月2日
- 場所：宮城県仙台市
- 来場者：約1万人
- アンケート回収数：**527件**
内自動車1-ザー：334件(63%)
- 自動車リサイクル認知状況：**70%**
- メディアへの掲出状況
河北新報



⑧

- 日程：9月15日
- 場所：愛知県名古屋市
- 来場者：約11万人
- アンケート回収数：**867件**
内自動車1-ザー：577件(67%)
- 自動車リサイクル認知状況：**74%**
- メディアへの掲出状況
中部経済新聞



⑨

- 日程：10月6日、7日、福岡県北九州市で開催予定だった「北九州エコライフステージ」は台風の影響により中止

⑩

- 日程：10月6日、沖縄県那覇市で開催予定だった「県民環境フェア」は台風の影響により中止

⑪

- 日程：11月4日
- 場所：島根県松江市
- 来場者：約1万人
- アンケート回収数：**525件**
内自動車1-ザー：422件(80%)
- 自動車リサイクル認知状況：**71%**
- メディアへの掲出状況
山陰中央テレビ



**PRIMEニュース
(山陰中央テレビ)**

⑫

- 日程：12月8日～9日
- 場所：京都府京都市
- 来場者：約3万人
- アンケート回収数：**1,000件**
内自動車1-ザー：709件(71%)
- 自動車リサイクル認知状況：**71%**
- メディアへの掲出状況
京都新聞



⑬

- 日程：12月6日～8日
- 場所：東京都江東区
- 来場者：約16.2万人
- アンケート回収数：**2,108件** 内自動車ユーザー：1,141件(54%)
- 自動車リサイクル認知状況：**79%**
- メディアへの掲出状況：**共同通信、日経新聞、日刊自動車新聞等**

* 共同通信社から提供いただいた取材映像は次のURLを参照ください

<https://www.youtube.com/watch?v=Hc8-JAv-uSs&feature=youtu.be>

1) 主な出展内容

■マラカスゾーン

見て、触って楽しみながら学べることができる、再生ペレットを使用したマラカス作りを実施。



再生ペレット



マラカス

■紙芝居

難しい内容をわかり易く、楽しみながら学ぶことができる、自動車リサイクルに関するオリジナル紙芝居を、プロの紙芝居師を招き実演。



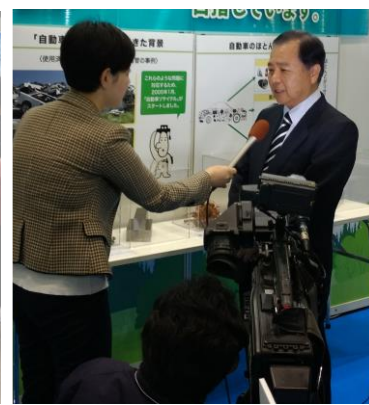
オリジナル紙芝居(一例)



オリジナル紙芝居

2) 取組の情景

共同通信社を始めとした様々なメディアの取材を受けるなど、多くの来場者に情報提供を行った。



5. 小学生とその保護者を対象とした取組

日本自動車工業会を始めとした自動車リサイクルの関係者と共に、小学生に向けた体験学習の場を提供し、小学生とその保護者の認知向上と理解促進に取り組んだ。そして、この取組で得られたコンテンツを活用して、地域メディアや自治体などを通じて、地域住民への情報拡散に取り組んだ。

(1) 背景

小学5年の社会科で学ぶ自動車リサイクルは、日本の基幹産業の“自動車”の中で紹介されている。情報の受け手の小学生自らが、循環型社会に向けた自動車リサイクルの取組を正しく理解し、興味を持ってもらい、日本の産業や環境保全などに現状や将来について考えるための基礎情報の提供が必要である。

(2) ねらい

“子ども記者”が取材者となり、小学生の目線で自動車リサイクルの取組をわかりやすく伝えることにより、次の効果を期待する。

- 小学生とその保護者、学校の先生の認知向上と理解の促進。
- 地域住民、地域自治体、地域メディアなどの読者への情報拡散。
- 関係する事業者間でのベストプラクティスの共有。

(3) 実施概要（以下①～③の取組を実施）

①小学生新聞「子ども記者」による現場取材を実施：（5月～9月）

掲載月	取材内容	協力団体
6月	リサイクル部品の利用促進に向けた取組	自動車リサイクル部品協議会
7月	解体事業者の取組	自動車破碎残さリサイクル促進チーム（ART）
8月	破碎事業者の取組	自動車破碎残さリサイクル促進チーム（ART）
8月	販売事業者(引取業者)の取組	日本自動車販売協会連合会
9月	自動車メーカーの取組	日本自動車工業会

＊現場取材により制作したコンテンツの利用方法

毎日小学生新聞に掲載、“Newsが分る”冊子に掲載、環境イベントで来場者に提供、全国教育委員会に提供、学校教科書制作会社へ提供、全国経済産業局・環境事務所へ提供、関係団体を通じて関連事業者へ提供、等々

②全国小学校に壁新聞にした取材記事の内容を配付：（10月）

③第2回クルマのリサイクル作品コンクールを実施：（10月～3月）

【第1回】リサイクル部品の利用促進に向けた取組（6/18掲載）

7 2013年（平成25年）6月18日（月）

毎日小学生新聞

毎小こども記者 自動車リサイクルの秘密を探る! ①部品編

まなぼう! プリマリアプロジェクト

毎小こども記者の目

山田 龍太 (第3) 記者が車の部品について、その役割やリサイクルの仕組みについて、取材しました。車は、私たちの生活に欠かせない乗り物です。その部品は、どのようにリサイクルされているのでしょうか。今回は、自動車リサイクルの秘密を探るべく、自動車リサイクルセンター（JARC）を訪ねました。

山田 龍太 (第4) 記者が車の部品について、その役割やリサイクルの仕組みについて、取材しました。車は、私たちの生活に欠かせない乗り物です。その部品は、どのようにリサイクルされているのでしょうか。今回は、自動車リサイクルの秘密を探るべく、自動車リサイクルセンター（JARC）を訪ねました。

山田 龍太 (第5) 記者が車の部品について、その役割やリサイクルの仕組みについて、取材しました。車は、私たちの生活に欠かせない乗り物です。その部品は、どのようにリサイクルされているのでしょうか。今回は、自動車リサイクルの秘密を探るべく、自動車リサイクルセンター（JARC）を訪ねました。

きょうの現場

部品を取り出す作業を取材

昭和メタル機械工場

高い技術が再利用を可能に

古い車は宝の山

エンジンを分解して、再利用可能な部品を取り出す作業を行っています。この作業には、高い技術と経験が必要です。昭和メタル機械工場では、古い車の部品を丁寧に分解し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

クルマのほとんどリサイクル

自動車リサイクルの仕組みについて、詳しく説明しています。自動車リサイクルセンター（JARC）では、古い車の部品を回収し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

品質をチェック!

自動車リサイクルの品質を確保するために、厳格なチェックを行っています。品質を確保することで、再利用可能な部品の信頼性を高め、環境保護に貢献しています。

外す

古い車の部品を外す作業を行っています。この作業には、高い技術と経験が必要です。昭和メタル機械工場では、古い車の部品を丁寧に分解し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

解体スタート

古い車の解体作業を開始しました。この作業には、高い技術と経験が必要です。昭和メタル機械工場では、古い車の部品を丁寧に分解し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4517/>

【第2回】解体事業者の取組（7/26掲載）

7 2013年（平成25年）7月26日（木）

毎日小学生新聞

毎小こども記者 自動車リサイクルの秘密を探る! ②解体編

まなぼう! プリマリアプロジェクト

毎小こども記者の目

山田 龍太 (第3) 記者が車の部品について、その役割やリサイクルの仕組みについて、取材しました。車は、私たちの生活に欠かせない乗り物です。その部品は、どのようにリサイクルされているのでしょうか。今回は、自動車リサイクルの秘密を探るべく、自動車リサイクルセンター（JARC）を訪ねました。

山田 龍太 (第4) 記者が車の部品について、その役割やリサイクルの仕組みについて、取材しました。車は、私たちの生活に欠かせない乗り物です。その部品は、どのようにリサイクルされているのでしょうか。今回は、自動車リサイクルの秘密を探るべく、自動車リサイクルセンター（JARC）を訪ねました。

山田 龍太 (第5) 記者が車の部品について、その役割やリサイクルの仕組みについて、取材しました。車は、私たちの生活に欠かせない乗り物です。その部品は、どのようにリサイクルされているのでしょうか。今回は、自動車リサイクルの秘密を探るべく、自動車リサイクルセンター（JARC）を訪ねました。

きょうの現場

フロントとエアバッグを取り出す作業を取材

大分市 大山西事

ガス逃さない大事な一手間

温暖化も防止

エンジンを分解して、再利用可能な部品を取り出す作業を行っています。この作業には、高い技術と経験が必要です。昭和メタル機械工場では、古い車の部品を丁寧に分解し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

クルマのほとんどリサイクル

自動車リサイクルの仕組みについて、詳しく説明しています。自動車リサイクルセンター（JARC）では、古い車の部品を回収し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

品質をチェック!

自動車リサイクルの品質を確保するために、厳格なチェックを行っています。品質を確保することで、再利用可能な部品の信頼性を高め、環境保護に貢献しています。

外す

古い車の部品を外す作業を行っています。この作業には、高い技術と経験が必要です。昭和メタル機械工場では、古い車の部品を丁寧に分解し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

解体スタート

古い車の解体作業を開始しました。この作業には、高い技術と経験が必要です。昭和メタル機械工場では、古い車の部品を丁寧に分解し、再利用可能な部品を抽出しています。この部品は、新しい車に再利用され、資源の節約と環境保護に貢献しています。

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4522/>

Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC

12

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4663/>

【第4回】自動車販売店の取組（9/14掲載）

拡大した記事はこちら <https://www.iarc.or.jp/news/4770/>

7 2018年（平成30年）9月30日（日）

毎日小学生新聞

毎小こども記者の目

毎小こども記者

自動車リサイクルの秘密を探る！⑤自動車生産編

みんながどうして？

まなぼう！

のびるリサイクル

8 2018年（平成30年）9月30日（日）

毎日小学生新聞

きれいにしてから海へ 水処理センター

1日200トン

工場では、自動車の部品と空気の塵を吸い取ります。工場内にある粉末回収センターでは、吸った塵を自動車の部品（エンジンやブレーキ）に再利用します。また、回収した塵を再利用して、自動車の部品（エンジンやブレーキ）に再利用します。また、回収した塵を再利用して、自動車の部品（エンジンやブレーキ）に再利用します。

生産工場を取材

日産自動車 油井工場

きょうの現場

15分のは

貴重な資源 繰り返し使う

環境を考え車作り

新車にもリサイクル素材

新車にもリサイクル素材

自動車リサイクルの流れ

クルマのほとんどをリサイクル

クルマのほとんどをリサイクル

ペットボトルが部品に

ペットボトルが部品に

廃ボールごみ大幅減！

廃ボールごみ大幅減！

自動車リサイクルの秘密を探る！⑤自動車生産編

自動車リサイクルの秘密を探る！⑤自動車生産編

拡大した記事はこちら <https://www.jarc.or.jp/news/4836/>

<小学生の見学の様子>



有限会社昭和メタル様での（埼玉県）での見学の様子

大山商事株式会社様（大分県）での見学の様子

6. クルマのリサイクル作品コンクールを開催

小学生自らが自動車リサイクルの学びを通じて、自動車の産業や環境保全に向けた取組の現状や将来を考え、自動車リサイクルの取組の理解が深められるように、全国の小学生を対象とした第2回クルマのリサイクル作品コンクールを開催した。

また、小学生の学びの集大成とした、全国小学生を対象としたクルマのリサイクルに関する作品の募集を行った。その結果、全国から7,357件の作品の応募を受け、自動車リサイクルの関係者の協力を得ながら厳正に選定した入賞作品について表彰式を行った。

(1) 開催概要

- 主 催：公益財団法人自動車リサイクル促進センター
- 後 援：経済産業省、環境省、全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会、日本自動車工業会、日本自動車販売協会連合会、日本自動車リサイクル部品協議会、毎日新聞社/毎日小学生新聞
- 応募資格：小学生（日本在住）
- テーマ：「自動車リサイクル」についてみんなに知ってもらいこと
- 募集内容：「自動車リサイクル」をテーマにした標語・ポスター
- 応募期間：2018年11月1日～2019年1月31日
- 入賞発表：3月29日

(2) 開催概要

(*)作品コンクールの詳細は次のURLを参照

<https://www.jarc.or.jp/contest2018/>

【最優秀賞】



佐藤 真穂(さとう まほ)
東京都 あきる野市立西秋留小学校 3年生

乗り終わり

未来へつなぐ

リサイクル

浦 蒼祐(うら そうすけ)
福岡県 春日市立須玖小学校 5年生

【小学生新聞賞】



山本 凌(やまもと りょう)
大阪府 和泉市立国府小学校 5年生

のっていた
ぼくのくるまが
みらいうむ

精松 怜音(あべまつ れおん)
鹿児島県 始良市立建昌小学校 3年生

【審査員特別賞】



吉岡 優里(よしおか ゆり)
東京都 国分寺市立第八小学校 4年生

捨てないよ
きみはだいじな
資源だもん

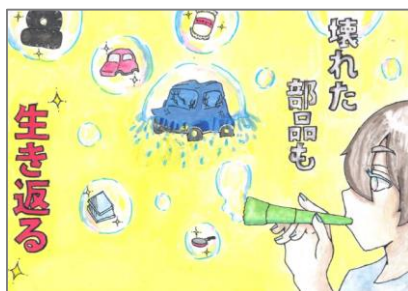
尾股 優生(おまた ゆうせい)
福島県 白河市立白河第一小学校 3年生



楯 奏志(たて そうし)
岐阜県 中津川市立南小学校 5年生

自動車は
ほんとに資源の
宝箱

田原 壮真(たはら そうま)
奈良県河合町立河合第二小学校 5年生



井上 こころ(いのうえ こころ)
岐阜県 東白川村立東白川小学校 6年生

すがた変え
誰かのもとへ
わが愛車

藤井 空良(ふじい そら)
大阪府 島本町立第一小学校 5年生

【入賞】 ポスターの部 (25名)

伊藤 海晴(いとう かいせい)	北海道 松前町立松城小学校 3年
岡山 琥珀(おかやま こはく)	埼玉県 所沢市立美原小学校 2年
藤田 凜夏(ふじた りな)	埼玉県 草加市立西町小学校 5年
鎌 ゆり奈(かま ゆりな)	千葉県 我孫子市立高野山小学校 5年
北田 真唯(きただ まい)	東京都 八王子市立館小中学校 6年
石関 未千花(いしげき みちか)	東京都 昭島市立共成小学校 5年
来城 朱音(らいじょう あかね)	神奈川県 座間市立立野台小学校 5年
志津 夢子(しづ ゆめこ)	岐阜県 中津川市立南小学校 5年
田口 奈寿南(たぐち なずな)	岐阜県 中津川市立南小学校 5年
松原 のの香(まつばら ののか)	岐阜県 中津川市立南小学校 5年
城山 果乃子(しろやま かのこ)	愛知県 尾張旭市立本地原小学校 5年
鈴木 優空(すずき ゆあ)	愛知県 春日井市立小野小学校 4年
高橋 里歌(たかはし りか)	愛知県 春日井市立小野小学校 4年
前川 晃輝(まえかわ こうき)	愛知県 豊川市立豊川小学校 3年
嶋村 和子(しまむら かずこ)	京都府 京都教育大学附属京都小中学校 6年
阪上 胡陽(さかうえ ひさはる)	大阪府 和泉市立国府小学校 5年
辻村 妃梗(つじむら ひなき)	大阪府 和泉市立国府小学校 5年
鳥居 蘭(とりい らん)	大阪府 和泉市立国府小学校 5年
西垣 咲貴(にしがき さき)	大阪府 和泉市立国府小学校 5年
廣元 さくら(ひろもと さくら)	山口県 周南市立徳山小学校 5年
一藁 心晴(いちわら こはる)	香川県 丸亀市立城東小学校 1年
中井 小陽(なかい こはる)	福岡県 北九州市立吉田小学校 5年
松尾 樹志(まつお きし)	鹿児島県 始良市立建昌小学校 1年
貴島 結奈(きじま ゆな)	鹿児島県 天城町立天城小学校 5年
永井 滉大(ながい こうだい)	鹿児島県 天城町立天城小学校 5年

【入賞】 標語の部 (25名)

石井 音緒(いしい ねお)	青森県 八戸市立柏崎小学校 5年
高橋 海成(たかはし かいせい)	福島県 いわき市立中央台南小学校 5年
石本 權(いしもと かい)	茨城県 土浦市立土浦小学校 5年
田野邊 来希(たのべ らいき)	栃木県 宇都宮市立城山西小学校 5年
来馬 峯生(くるば みねお)	埼玉県 富士見市立勝瀬小学校 5年
大野 律希(おおの りつき)	千葉県 船橋市立宮本小学校 1年
落合 健将(おちあい けんしょう)	千葉県 船橋市立二宮小学校 5年
山本 陽翔(やまもと はると)	東京都 台東区立浅草小学校 2年
田村 龍太郎(たむら りゅうたろう)	東京都 杉並区立荻窪小学校 5年
前田 留衣(まえだ るい)	東京都 杉並区立荻窪小学校 5年
黒澤 凜(くろさわ りん)	東京都 江戸川区立第三松江小学校 5年
船越 翔陽(ふなこし しょうよう)	神奈川県 横浜市立小田小学校 5年
山崎 唯央(やまざき いお)	神奈川県 茅ヶ崎市立松浪小学校 5年
樺澤 良太(かばさわ りょうた)	新潟県 長岡市立阪之上小学校 5年
前島 里駆(まえしま りく)	山梨県 笛吹市立一宮西小学校 2年
涌井 琉々菜(わくい るるな)	長野県 小布施町立栗ガ丘小学校 5年
横田 伊織(よこた いおり)	愛知県 名古屋市立汐路小学校 5年
酒井 ひかり(さかい ひかり)	愛知県 津島市立高台寺小学校 5年
小栗 愛子(おぐり あいこ)	愛知県 稲沢市立三宅小学校 6年
岡村 寛大(おかむら かんた)	京都府 京都市立南大内小学校 5年
大塚 愛梨(おおつか あいり)	大阪府 高槻市立寿栄小学校 5年
藤本 那希紗(ふじもと なぎさ)	大阪府 高槻市立寿栄小学校 5年
掛橋 玲奈(かけはし れな)	奈良県 桜井市立桜井西小学校 5年
吉田 早希(よしだ さき)	奈良県 智辯学園奈良カレッジ小学部 6年
立岩 真実(たていわ まみ)	山口県 岩国市立玖珂小学校 5年

【団体賞】（10校）

大阪府和泉市立国府小学校
 神奈川県茅ヶ崎市立松浪小学
 北海道北斗市立浜分小学校
 東京都世田谷区立等々力小学校
 神奈川県茅ヶ崎市立小和田小学校
 千葉県野田市立関宿中央小学校
 千葉県千葉市立あすみが丘小学校
 岐阜県中津川市立南小学校
 青森県青森市立沖館小学校
 東京都杉並区立荻窪小学校

<表彰式集合写真>



7. 大阪市に常設展示ブースを開設

2019年1月18日、おおさかATCグリーンエコプラザ実行委員会（大阪市、・アジア太平洋トレードセンター株式会社、日本経済新聞社）が主催する“おおさかATCグリーンエコプラザ”に、自動車リサイクルに関する常設展示ブースを開設した。現在、北は北海道から南は沖縄県まで全国各地域で開催される環境イベントにキャラバンしながら出展し、ユーザー理解活動に取り組んでいるところであるが、今後、このような環境施設を活用した取組を加え、活動の幅を広げていく。

（1）おおさかATCグリーンエコプラザの概要

名 称：大阪環境産業振興センター
[おおさかATCグリーンエコプラザ]
主 催：大阪環境産業振興センター実行委員会
・大阪市
・アジア太平洋トレードセンター株式会社
・日本経済新聞社
所在地：大阪市住之江区南港北2-1-10
営業時間：10：30～17：00(月曜休館)
概要：環境保全活動に関係する企業等が出展。
子供から学識経験者や外国視察団などの幅広い層が来場（年約10万人）。
環境教育と、環境産業振興との両面の機能を備えている。



（2）常設展示ブースの式典状況



8. 将来のユーザーへの情報提供の取組

運転免許教習所に通う将来のユーザーに対して、リサイクル料金の支払やその用途など、自動車リサイクルへの関わり方について、運転免許学科教本（約 7 9 万部）に掲載し、若年層の認知を高める取組を行った。

(1) 背景

ユーザーを対象とした認知状況の調査を行った結果、相対的に若年層の認知低い傾向にあることから、若年層の認知向上に向けた情報提供が必要である。

（２）具体的な取組

- “自動車取得二ーズ”、“若年層”といったキーワードに当てはまる運転免許教習生を対象とする。
- 運転免許教習生の手元に一定期間残る学科教本に自動車リサイクルに関する情報を掲示する。
- 運転免許教習生向けの学科教本制作会社の協力を得て取り組む。

* 警察庁が公表する平成26年度運転免許統計に基づき試算

免許区分	保有者数	
第一種免許 *新規は普通のみ	約 7, 8 3 2 万人	
	新規	約 1 1 1 万人

ターゲット

新規：運転免許教習生の
8割程度が18～25歳の若者



9. テレビ・ラジオなどのメディアを活用した取組

自動車ユーザーを含む国民一人ひとりの関心を高め、そして共感を得るために、“映像”と“音”によるわかり易いメッセージを制作した。
そして、地方局地上デジタル放映、BSデジタル放映などの媒体を使って、映像を合計1,088回配信し、関心を喚起する取組を行った。

(1) 背景

昨年度(2017年度)は、環境や自動車に関連する情報が増えるタイミングで、幅広く自動車ユーザーの認知向上を目指して、全国的な新聞広告を3回実施し、その結果、幅広く注目を上げる取組を行うことができた。

2018年度は、昨年度の取組の振返りの下、“循環型社会に向けた自動車リサイクルの取組”について、自動車ユーザーを含む国民一人ひとりの関心を高め、そして共感が得られるようなイントロダクション的な“映像”と“音”によるわかり易いメッセージが必要だと考え、新たな映像等を製作し、発信することとした。

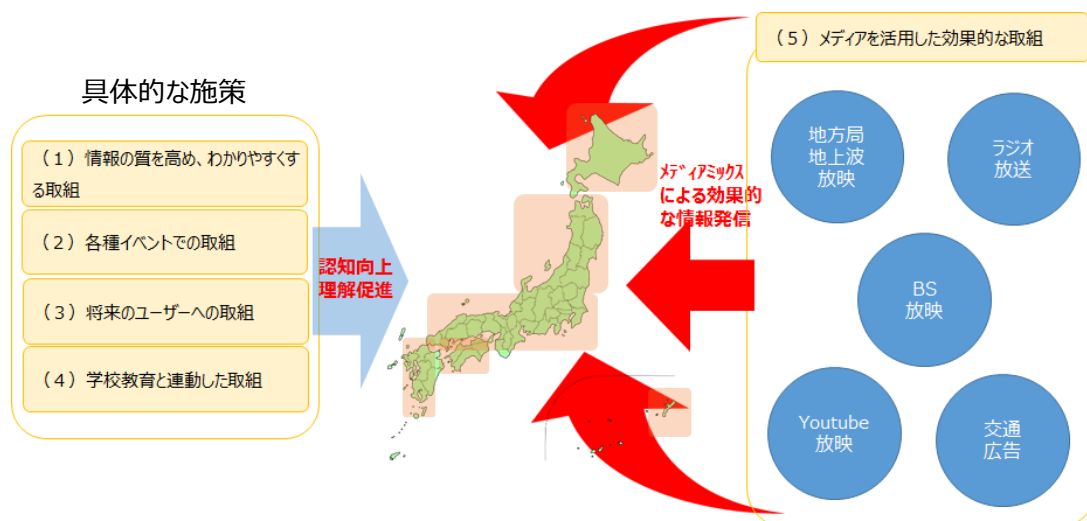
(2) 映像をみた後の人々に期待すること

映像をみて感じたことを周囲の人々の間で話題にし、未来のために何をしなければならぬのかを考え、そして、「共感」がヒトとヒトを繋がっていくことを期待する。

(3) 用途

- テレビ放映、ラジオ放送
- 全国イベントでの放映
- インターネットメディアでの配信
- 公共交通などでの配信
- JARCのウェブサイトでの配信
- 関係者の利用 等

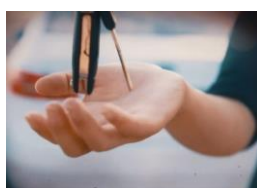
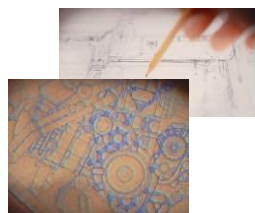
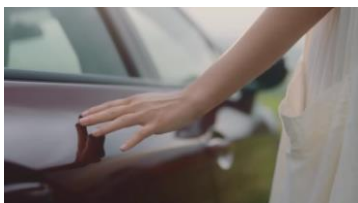
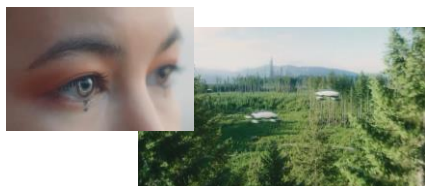
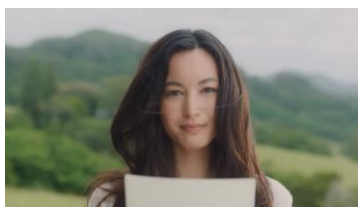
<メディアを活用した取組の概念図>



(4) 映像イメージ

人々の関心を喚起する映像を制作

<映像イメージ>



<メッセージ>

拝啓。100年後を生きるあなたへ。

あなたの目の前には、
美しい自然とテクノロジーがお互いに共生していますか？

どんな22世紀か。
まだわからないけれど。

つくる人、乗る人、次につなぐ人、

みんなのチカラを合わせて。

私たちは、クルマのリサイクルをすすめていきます。

いつか、この星を生きるあなたのために。

(5) 映像配信先

<配信先の選定条件>

- ・地方ユーザーに重点を置きつつ、全国満遍なく配信できるように地域を選定。
ただし、配信数の効率を上げるため、地域メディアの絞込みを行う。
- ・自動車保有台数上位ランキングに基づき、配信地域を選定。
- ・配信時間帯は、視聴者数の獲得ができる、日中帯で選定。
- ・配信する番組枠は、N G枠を設けて、リスクヘッジを行う。

BSデジタル放送

計447回放送

<BS朝日>



<BS日テレ>

BS0テレ

<北海道テレビ放送>



<九州朝日放送>

KBC

<長野朝日放送>



<富山テレビ放送>



地上デジタル放送

計641回放送

<福島放送>



<琉球朝日放送>



<新潟テレビ21>



<テレビ新広島TSS>



<テレビ静岡SUT>



<岡山放送OHK>



<仙台放送OX>



10. ユーザー理解活動による取組効果

「自動車リサイクル」についての新聞・雑誌記事、テレビ番組、インターネット記事などの露出状況及びリーチ数を調査会社の協力を得て算出した。その結果、「自動車リサイクル」に関する新聞・雑誌記事とテレビCMをあわせて、延べ2,872件の露出であり、延べ換算の想定値ではあるが約3億3344万人の方々に情報を届ける取組が行えた。（昨年度は、延べ1,146件の露出、延べ換算想定約1億8949万人）

ユーザーの関心・態度に合わせた情報発信を展開

＜自動車リサイクルへの関心・態度＞

＜情報発信の取組＞

自動車ユーザー

自動車リサイクルに対する
関心が高く・態度も確定的

自動車リサイクルに対する
関心は高いが、態度は未確定

自動車リサイクルに対する
関心が低い

小学生・保護者など

学習の促進

- リサイクル現場見学会
- 小学生新聞に掲載
- コンクールの展開 等



事実の伝達（ファクト訴求）

- ウェブページの拡充
- ニュースリリースの発信
- データBookの展開
- 取組・実績の発信 等



理解の促進（ロジック訴求）

- 環境イベントへの出展
- 常設ブースの設置 等
- 広報ツールの展開
- チラシ・ポスターの展開 等



関心の喚起

- テレビ・ラジオでの情報発信
- インターネットメディアでの露出を高める取組



メディアミックスによる情報発信

＜活動による露出状況とリーチ状況（概算）＞

媒体	関連する主要な施策	件数	リーチ数(人)
テレビ番組	・環境イベント出展	1	約7万
新聞・雑誌記事	・ニュースリリース配信 ・環境イベント出展 ・小学生とその保護者を対象とした取組	317	約3,086万
Web記事	・ニュースリリース配信 ・環境イベント出展 ・小学生とその保護者を対象とした取組	1,466	約6,733万
テレビCM(広告)	・CM配信	1,088	約23,519万
合 計		2,872	約33,344万

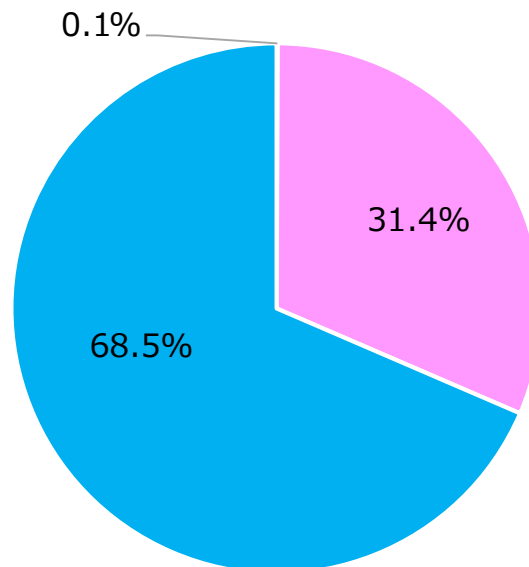
※リーチ数とは、情報に接触した人を、延べ人数で現したもの。

各メディアの接触者の延べ人数を、発行部数や視聴率から推量し、日別、媒体別で算出。

※表中の数値は、確認できる範囲で調べた結果である。

＜媒体毎のリーチ数の比率(テレビCMを除く)＞

■ テレビ番組 ■ 新聞・雑誌記事 ■ Web記事



＜リーチ数の算出方法＞

- テレビ番組、テレビCM：番組世帯視聴率 × 視聴可能世帯数 × 世帯内平均人数 =リーチ数として算出。
- 新聞記事：発行部数 × 世帯内平均回読人数 × 新聞閲読率 =リーチ数として算出。
- 雑誌記事：発行部数=リーチ数として算出。
- Web記事：ユニークユーザー数=情報接触人数として考え、日別に算出。

1 1. ユーザー理解活動に要した費用

2018年度におけるユーザー理解活動に要した費用の決算額は、23,414万円。予算執行率は89.4%であった。

予算と実績の差△2,786万円の要因は、主として各種活動に要する費用を価格競争などにより抑えたことによるものである。

なお、この理解活動費は、特預金と繰越金から負担される。

＜ユーザー理解活動に要した費用の内訳＞

(単位：万円)

#	取組の方向性	施策例	年度 計画額 ①	年度 合計額 ②	執行率 ②/①
1	全国万遍なく、環境関連イベントに出展し、自動車リサイクルの取組・成果の認知向上の機会を創出する	●全国環境イベントでの情報提供の取組 ●地域メディアと連携した情報拡散の取組	2,000	1,550	77.5%
2	若年層に向けた情報発信を強化する	●小学生の学校教育と連動した取組 ●自治体と連携した情報拡散の取組 ●運転免許教習生に対する取組	6,100	4,423	72.5%
3	各種メディアを活用して露出を高める取組を行う	●メディアミックスによる効果的な取組	13,000	14,523	111.7%
		●ニュースリリースの積極的配信 ●その他のパブリシティ活動	0	0	-
4	身近なところから、ユーザー視点で分かりやすい情報へと改善を行う	●ウェブページを活用した情報発信と改善 ●広報冊子を活用した情報発信と改善 ●広報ツール制作（チラシ・ポスター等）	1,770	499	28.0%
5	自動車リサイクルの現状や実態の変化等を把握する	●ユーザーの認知状況の把握 ●各種ユーザーニーズの把握	330	76	23.0%
6	広報・PRの専門家を助言や支援を受けながら、質の高い情報を、効果的に発信する	●効果的な取組の実務支援 ●リスク低減の観点での支援 ●情報発信の効果検証 他	3,000	2,343	78.1%
合 計			26,200	23,414	89.4%

*合計額には、人件費・管理費等を含まない

<各施策に対する実績>

主要な施策とその実績（まとめ）

●全国環境イベントでの情報提供の取組

・札幌・秋田・仙台・東京・横浜・長野・金沢・名古屋・京都・松江・松山で開催（全国11ヶ所）された各種イベントに出展。

●地域メディアと連携した情報拡散の取組

・河北新報、京都新聞、SBC信越放送、山陰中央テレビなどの地域メディアと連携し、情報を拡散。

●小学生の学校教育と連動した取組

・小学生とその保護者を対象とした4回の現場見学会を開催し、その情景を小学生新聞を始めとした各種メディアに5回展開（約90万部展開）。また、全国小学校、教育委員会などに述べ3万ヶ所に展開。

・クルマのリサイクル作品コンクールを開催し、全国から7,357件の作品の応募を受け、自動車リサイクルの関係者の協力を得ながら厳正に選定した入賞作品について表彰式を実施。

●自治体と連携した情報拡散の取組

・各種イベントへの出展に際して、地域住民に向けた積極的な情報発信を展開していくため、地方公共団体にチラシ・ポスターなどの広報ツールを提供するなど、密に連携した取組みを実施。

・車検を受けるタイミングで自動車ユーザーに知ってほしい情報を展開していくため、全国運輸支局等窓口に着払いを備え付け、そしてポスターを掲示するなど、自動車リサイクルの関係者と連携した取組みを実施。

・大阪市が運営するATCグリーンエコプラザの協力を得て、自動車リサイクルに関する常設展示ブースを開設し、これを情報発信の拠点とした取組みを実施。

●運転免許教習生に対する取組

・運転免許教習生に向けて、リサイクル料金の支払やその用途など、ユーザーの自動車リサイクルへの関り方を運転免許学科教本（約79万部）に掲載するなど、若年層の認知を高める取組みを実施。

●メディアミックスによる効果的な取組

・“映像”と“音”によるわかり易い広報映像を制作し、これを地上デジタル、BSデジタルなどのメディアを活用して合計1,088回配信。

●ニュースリリースの積極的配信

・効果的な広報活動の一環としてのニュースリリースを合計24回配信し、当該情報がインターネットメディアに1,370件掲載されるなど、露出を高める取組を実施。

●その他のパブリシティ活動

・公式キャラクターである“自動車リサイクル博士”を更に活用するべく、“ゆるキャラクランプリ”に初出場し、自動車リサイクルの認知を高める取組みを行った。この取組みにおいては、自動車リサイクルの関係者の協力を得て、2,383票の投票を獲得。

●ウェブページを活用した情報発信と改善

・広報映像やリサイクル博士のキャラクターなど活用し、タイムリーな情報を発信。

●広報冊子を活用した情報発信と改善

・ユーザー向け広報ツールの英訳版を作成し、これを外国人ユーザーに対して配布。

●各種ユーザーニーズの把握

・出展した各種イベントで来場者から得た10,803件のアンケート回答から、分かりやすい広報コンテンツへと改善していくためのニーズを把握。

・クルマのリサイクル作品コンクールに参加した小学校から得た104件のアンケート回答から、当該作品コンクールを改善していくための様々なニーズを把握。

●情報発信の効果検証

・テレビ・新聞・雑誌やインターネットメディアでの「自動車リサイクル」に関する露出状況を調べた結果、延べ換算で2,872件の情報が掲出され、閲覧・視聴可能な人数は延べ約3億3,344万人であることを確認。

<https://www.jarc.or.jp/>